



当社量子ソリューション事業について

株式会社東陽テクニカ
量子コンピューティング・カンパニー
山下 泰久

2026年5月21日

“はかる”技術で未来を創る



1. エグゼクティブサマリー
2. 当社量子ソリューション事業の経緯
3. 日本の量子コンピューティング市場と成長予測
4. 当社の量子ソリューション事業
5. 具体的な取り組み状況
6. 量子ソリューション事業の中期目標

- 当社量子ソリューション事業は中長期の成長領域として位置づけ
- 量子コンピューティングと量子センシングの2軸で展開中
- 現在は事業化初期(基盤構築フェーズ)にあり、
外部パートナーとの協議を開始するなど実用化に向けた取り組みを推進中

将来は、既存の計測・解析ビジネスとのシナジーを活かし、
量子分野におけるソリューション提供企業への展開を目指す

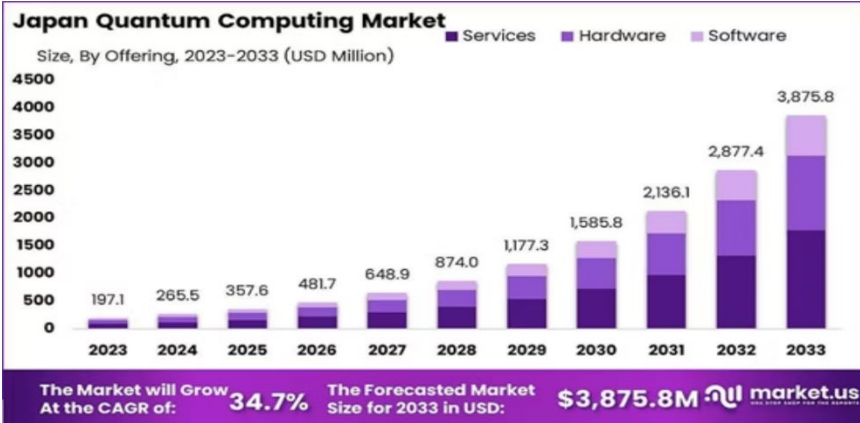
当社量子ソリューション事業の経緯

- 量子関連事業を模索する中で、IQM社とのコンタクトを契機に事業化へ本格検討を開始。
当社の既存事業との高い親和性および中長期の成長機会を踏まえ、
2025年7月に同社と販売代理店契約を締結し、戦略的に参入を決定
- 量子コンピューター事業の構築と並行し、
量子センシング技術にも将来的な事業機会を見出せたため、
現在コンピューティングとセンシングの両領域で事業ポートフォリオを構築中
- 現時点における当社量子関連の取り組みは、社会実装を見据えた
研究開発・実証実験・人材育成を通じ、将来の事業化に向けた基盤を構築している段階

日本の量子コンピューティング市場と成長予測

日本市場の成長予測

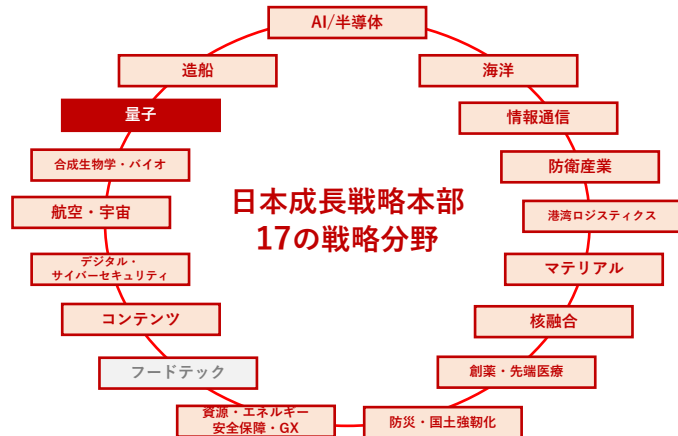
日本の量子コンピューティング市場はCAGR 34.7%で急拡大し、2033年には**38.76億USD**(約6,162億円, ¥159/\$)規模に達する見込み。
ソフトウェア・ハードウェア・サービスの三領域が揃って成長を牽引するとされている。



出典：Grand View Research "Japan Quantum Computing Market" (2024)

国家戦略としての推進

量子技術は、日本政府の重要技術育成プログラムにおいて「重要技術17分野」の一つとして位置づけられ、経済安全保障と産業競争力の両面から重点的な投資対象に。近年は関連戦略のもと、人材育成を中核に据えつつ、研究開発から産業化・エコシステム構築までを一体で推進する政策支援が加速している。



量子コンピューター事業

大学・官庁研究機関国内企業への導入支援及び
ユースケース開発・クラウドを含めた事業を構築

量子センシング事業

量子センシング用途ほか、
別用途のOEM事業を含む高付加価値分野への展開

量子人材教育事業

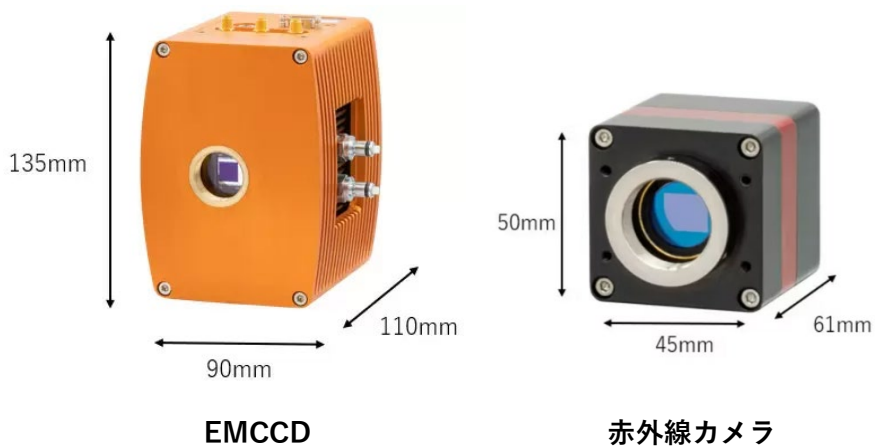
将来の顧客・人材基盤の構築に向けた
量子人材の教育・育成の機会提供・支援



超電導型量子コンピューター「IQM Radiance」シリーズ

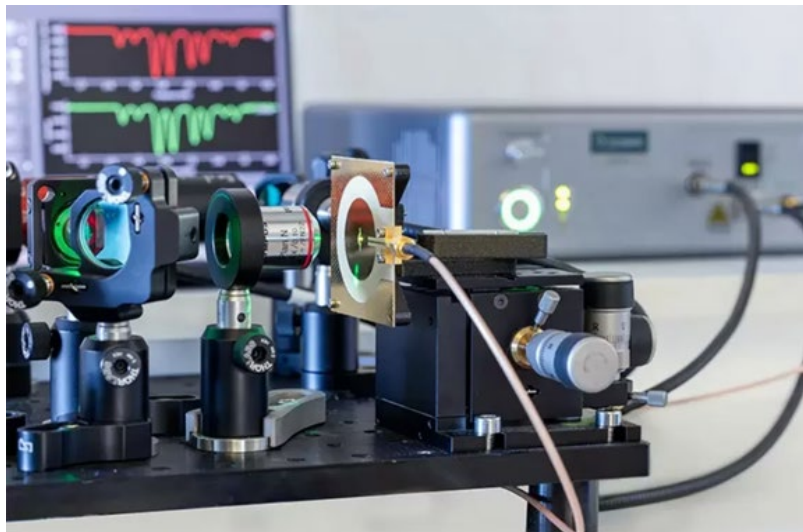
IQM Quantum Computers社 (フィンランド)

- 超電導型量子コンピューターの世界的リーダー企業(2018年設立)
- オンプレミス+クラウド提供
- 累計調達額 6億ドル以上、世界10カ国・20件以上の納入実績
- 2025年7月、当社と日本における量子コンピューターの販売代理店契約を締結



Raptor Photonics社 (英国)

- 高感度イメージング機器メーカー
(2006年設立)
- EMCCD(電子増倍CCD)/赤外線カメラで
超低照度環境を可視化
- 量子センシング分野に加え、
防衛・半導体・ライフサイエンス分野に活用
- 2026年2月、当社と国内販売代理店契約を締結



ダイヤモンドNVセンター教育キット
「Quantum Edukit」

Qzabre社 (スイス)

- スイス連邦工科大学チューリッヒ校発のスタートアップ(2018年設立)
- ダイヤモンドNVセンター*を活用した量子センシング教育・人材育成キットを販売
- 教育機関向けに実験環境を提供
- 当社は同社の販売代理店として、2026年4月より教育キット「Quantum Edukit (クオンタム エデュキット)」を販売

*ダイヤモンド中の窒素(N)と空孔(V)の間の欠陥。量子センシングにおいて微弱な磁気信号の変化を光として読み取る際に、高感度イメージングカメラを用いる

具体的な取り組み状況(量子コンピューター事業)



実証環境の構築により利用機会の拡大

- IQM社製量子コンピューター「[IQM Radiance20](#)」を2026年4月発注。
2027年春に稼働開始予定
- 研究用途および実証実験（PoC）を目的に導入を決定
- 導入前の実機による実証、HPC*と統合するための研究、
課金制クラウド利用、実機によるアルゴリズム開発や人材育成など
幅広い用途での利用を想定
- 国内研究機関との協議も進行中

* High Performance Computing：高性能計算

事業化に向けた取り組みを着実に推進
将来の量子コンピューターの社会実装、日本経済の発展に貢献



応用領域の開拓と量子人材の育成

- 高感度カメラは、量子センシング用途に加え、**半導体・防衛分野でOEM部品として引合いを獲得**。既存市場を活用し、早期事業化を視野
- 一般社団法人量子コンピューティング協会を通じた学生支援を実施。将来の人材獲得および量子分野におけるエコシステム形成を推進
- 国家プロジェクト（SIP・NEDO）に参画し、量子人材の育成を推進
- 「Quantum Edukit」を発売。国内で大学・研究機関から多数の引合いを獲得済

応用領域の探索・開発および事業機会の具体化を推進し、量子センシング事業立ち上げに向けて取り組みを着実に実行

具体的な取り組み状況(フィンランド経済大臣が本日来社)



フィンランド 経済大臣
Dr.サカリ・ピスト



当社取締役 上席執行役員(CTO)
木内健雄

当社R&Dセンターにおいて
レセプションイベントを実施

計測ソリューションプロバイダーとしての事業基盤を活用し、
量子ソリューション事業を新たな成長ドライバーに
持続的な企業価値向上の実現へ

2030年9月期の売上高ベース50～60億円を見込む

量子コンピューター事業
40億円

量子センシング事業
10億円

量子人材教育事業
5億円



ご清聴ありがとうございました

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

“はかる”技術で未来を創る

